

《担当者名》 鈴木英樹 hideki-suzuki@hoku-iryo-u.ac.jp、大須田祐亮、澤田篤史、用田歩、児玉壮志、中川賀嗣、榊原健一、冨家直明

【概要】

理学療法士としてのプロフェッショナリズムとは何かを学ぶ。社会に役立ち、活躍できる、倫理的で実践的な職業人になるべく、職業人として必要とされるコンピテンシー、プロフェッショナリズムとは何かを学修し、職業人としての基礎を構築する。また、学士課程のカリキュラムを理解し、専門職業人としての学修の基本であるアカデミックスキルを学び、将来にわたって持続的に学修を遂行できる学修習慣を身につける。

【学修目標】

（一般目標）

理学療法士として必要とされるコンピテンシーや倫理観を理解し、適切な学修方法やコミュニケーションスキルの基礎を身につけることで、専門職業人としての基盤を構築する。また、健康な大学生活を送るための自己管理能力を養い、学生同士の交流を深め、学修支援システムを活用しながら持続的な学修習慣を確立することを目指す。

（行動目標）

- ・理学療法学科のディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーについて説明でき、学士を修了するために必要な学修行動を実践できる。
- ・理学療法士として必要なコンピテンシーを理解し、大学での学生生活の明確な目標を認識できる。
- ・人権、倫理について理解し、大学の規定を遵守した行動を実践できる。
- ・健康な大学生活を送るための日常生活のマネジメント力を身につける。
- ・大学の実施する教育システムに適応し、自分に適した学修方法を身につける。
- ・大学内、学科内、クラス内での交流を活発化し、ピアサポートを強化する。
- ・学科内で構築している学修支援システムについて理解し、円滑に学修に利用することができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション	本科目の概要と目的・目標について説明する。 各授業で用いる学修支援システム（manaba, Classroom, glexa）の基本的な利用方法を理解し、実践する。	鈴木英樹 澤田篤史
2	理学療法士になるために	理学療法士の現状、役割、コア・コンピテンシーを説明し、学士課程修了後に確立すべき能力について説明する。 また現在、社会が必要とする人間像について理解する。 理学療法学科のカリキュラムと学修課程、必要なスキルと学修態度について説明する。	鈴木英樹 澤田篤史
3	学びの構築 1	理学療法学科における教育内容の概観、履修方法、受講方法（LMSの活用方法）について確認。説明を行う。 各授業で用いる学修支援システム（manaba, Classroom, glexa）の利用した課題の実施方法を理解し、実践する。	澤田篤史 大須田祐亮 用田歩
4	学びの構築 2	自己調整学習、メタ認知の必要性について説明する。	用田歩 澤田篤史 大須田祐亮
5	コミュニケーションスキル 1	医療人として必要な患者様、同僚との円滑なコミュニケーションを実現するための基礎を学ぶ。	澤田篤史 鈴木英樹 大須田祐亮 用田歩
6	コミュニケーションスキル 2	コミュニケーションスキル 1 で説明した基礎に基づく演習を行い、実践する。	澤田篤史 鈴木英樹 大須田祐亮 用田歩

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
7	実践倫理	法令遵守、大学の規定、公共、人権、医療人として必要なfitness to practiseについて説明する。 実践倫理について具体的課題を提示し、グループでの議論を通じて意思決定の選択について学ぶ。 大学における著作権の利用方法、個人情報保護について学ぶ。	榊原健一 大須田祐亮 児玉壮志
8	健康的なキャンパスライフ作り 1	保健センターの利用方法について紹介する。ワクチン接種・禁煙・防煙、健康診断、衛生について学ぶ。	中川賀嗣
9	健康的なキャンパスライフ作り 2	学生生活におけるメンタルヘルスについて理解する。学生相談室の利用の方法、各種障害などに起因する学習の問題、合理的配慮、ピアサポートについて説明する。	富家直明
10	健康的なキャンパスライフ作り 3	日本人の生活習慣病、ストレス、自殺について学ぶ。メンタルヘルス維持のための予防的アプローチとしてのセルフケアの知識を学ぶ。	富家直明
11	アカデミック・スキルズ 1	自己調整学修、メタ認知の実践を通じて、自身の課題を抽出する。	用田歩 大須田祐亮 澤田篤史
12	アカデミック・スキルズ 2	自己調整学修およびメタ認知の実践を通じて、今後の学修に向けた自身の課題を抽出する。	用田歩 大須田祐亮 澤田篤史
13	アカデミック・スキルズ 3	今後の学修に向けた自身の課題に対する具体的な対策および行動目標を立てる。	用田歩 大須田祐亮 澤田篤史
14	ライフプラン形成 1	理学療法士および社会人として、どのようなライフプランを形成していくかについて考える。	鈴木英樹 大須田祐亮 澤田篤史 用田歩
15	ライフプラン形成 2	自身が思い描くライフプランを実現するために、在学中行動・チャレンジすべきこととは何かについて考える。	鈴木英樹 大須田祐亮 澤田篤史 用田歩

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【アクティブ・ラーニング】

導入している

【評価方法】

授業内で指定されるレポート（30%）

授業内で行う課題への取組状況（70%）

定期試験は行わない

【教科書】

指定しない。必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

ABC of 医療プロフェッショナリズム 宮田靖志 / 翻訳, Nicola Cooper, Anna Frain, John Frain / 編 羊土社

【学修の準備】

各テーマの内容について、分からない用語や概念について事前に調べるなどの予習をすること（80分）。

復習は、授業に関連する課題についてまとめ直したり、指示のあった提出物の作成を通じて学修を深めること（80分）。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP1）生命の尊重と個人の尊厳を基盤とした幅広い教養と豊かな人間性、高い倫理観を持ち、優れたコミュニケーション能力を身につけている。

【実務経験】

鈴木英樹、大須田祐亮、澤田篤史、用田歩（すべて理学療法士）

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関、福祉機関などでの臨床経験を活かした教育を行う。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している